



銚子ジオパーク市民の会ニュース

第110号

2020年12月17日発行

発行責任 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL: <https://choshi-geopark.com>



屏風ヶ浦 (銚子市)

「地域への愛着や誇りを未来に生きる若者に！」

千葉県立銚子高等学校長 早川 昌二

頂きましたスライド20枚を文字書き起こしました
銚子ジオパーク市民の会ニュース編集部

令和2年度千葉県立銚子高等学校は、学校安全の普及と向上に尽力し多大の成果を上げた学校として学校安全表彰の栄誉を授けられました。本校では、平成26年から県立学校改革推進プランにより「防災の学び」学習活動を始めました。さらに令和元年から新たに銚子ジオパーク推進協議会による「ジオツアー」を導入しております。これは、「防災の学び」での授業内容を含めて、実際に自分の足で歩き目で見ること、光スポットの多くは災害に関連した多くの背景があることを知るためのものです。

授業内容を幾つか上げますと、ジオツアーの事前学習として銚子市の立体地図製作、防災教育プロジェクト302企画室による紙芝居「稲村の火」の教え、千葉科学大学看護学部と連携した「災害時の保健・

医療・福祉」に関する授業、銚子気象台での災害メカニズム学習、銚子の地層から発見された化石考察、災害弱者の視点での防災訓練、等々多岐にわたります。生徒たちが災害と向き合ってきた銚子の人々の努力を知り、結果として自分の住む町にも防災の観点から目看向くようになり、「災害時に自分たち一人ひとりが地域に対して何ができるのか？」の自分なりの考えを持つことができました。そして、未来を生きる若者に「地域への愛着や誇り」を引き継ぐことができたと思います。



10月22日に県立銚子高校の1年生160人を対象にジオパーク学習がおこなわれました。学習は20人ずつ8グループに分かれて、ガイドをおこないました。我々のグループは川原さんがガイドを、私がそれをサポートしました。



今回、学校から提示されたテーマは「銚子の立地がどう未来につながるか？」でした。これまでとは違ったテーマなので、戸惑う面があったと思うのですが、銚子の立地が過去から現在、さらに未来に向けて人々の生活にどのように関係しているのかを川原さんは分かりやすく説明していました。

ジオ学習報告 (県立銚子高等学校) 萩野 静也

形の成り立ちと縄文人の暮らしぶりなどを話していただきました。次に名洗地区に移り、移住してきた先人の漁業活動などの関係や今後の津波対策のための防波堤設置を説明していました。さらに、屏風ヶ浦遊歩道で、隆起した土地の形成とそこで営まれている生活活動やこの美しい景観の保全などを話し、屏風ヶ浦入口で解散しました。

世間はあつちもこつちもコロナ禍、ご多分に漏れずガイド要請も中止となっていたが、感染も下火となり(10月下旬現在、厳しい条件付きでの再開第1号に当たってしま

のため先方へコロナ対策条件の連絡などを行った。当日もガイドを始める前にお客様、ガイド双方の体温が35.5℃以下や体調チェックを確認する旨お伝えした。

コロナ禍のガイド 伊藤 光徳

前日に岩本専門員から指導を受け、ガイド料金も1〜5人まで1時間あたり500円の新料金と

「仕事で銚子には何回か来ているが一度ちゃんと知りたかった。よい機会がありとてもよかった」と喜ばれた。最後に皆さん、新型コロナウイルス対応ガイドラインを守って正しく恐れるを心がけ、そして楽しいガイドを目指しましょう!

当日屏風ヶ浦で待ち合わせ、マスク・消毒・非接触式電子温度計にて自分とお客様の体温チェック(3人共38.0℃だ

